



LEATHERECTION

SOKA
LEATHER

狩靴 食纏 ル ス ベル ウ。 Vol.2

狩ル靴ス、食ベル纏ウ。 Vol.2

2024
12/7
12:00-19:00

入場無料

駐車券は用意しておりません。なるべく公共交通機関をご利用ください。

年齢制限ございません。

東急東横線代官山駅中央口・東口から徒歩2分

ファミリーマートと靴屋の間の道を入り50mほど進むと右手にある百貨店です。

主催
LEATHERECTION
LEATHER TOWN SOKA Project team
協力
PORT

お問い合わせ
info@soka-leather.jp
048-936-2267 河合 泉(かわい いずみ)

於 **スペース R**
東京都渋谷区恵比寿西 1-35-3

エゾシカは実に美しい生きものである。オスのシンボリックな左右対称のツノが見事である。機能的な脚をもち、どんな藪でも森でも軽やかに走ることができる。旺盛な食欲で野山の草や木の実、葉、皮を食べる。群れはハーレムを形成し、2歳以上のメスは90%以上の確率で1年に1頭を出産し、生涯で数頭を出産するため、1年で15~20%個体が増えるという。生息域を増やし、今や北海道内で出没しないところはなく、農業や、交通の被害も深刻で被害例は枚挙にいとまがない。

北海道北見市を本拠地としてエゾシカ猟と、エゾシカ熟成肉の販売を行う LEATHERECTION 林徹(はやしとおる)は本来高いポテンシャルを持ちながらも廃棄されているエゾシカの皮を革として製品化できないかと試行錯誤していた。SOKA LEATHER は草加で100年近く技術を蓄積してきた皮革の産地。ニホンジカをはじめ野生動物の鞣しを受け入れ始めていた。両者は全く違う仕事をしてきたが、想いが重なることから2018年に必然的に出逢い、ともに事業をすることとなった。

"駆除されても、もとは命であったもの。可能な限り、美味しくいただき最後まで使う、それが屠ったものの責任" エゾシカは私たちの血肉となり、鞣(なめ)し革は至高のマテリアルとして私たちが身に纏うものとなる。

現在、北海道を含む、日本国内では生態系の保全のため年間数十万頭もの鹿が駆除されているがその約8割は埋設など無駄に捨てられ、廃棄費用に税金が使われている。皮革の利用はさらに少なく0.2%という。消費需要が増えれば、廃棄される鹿が減り、命を再生させるサイクルができあがる。それを作り上げるのが私たちの目的の一つである。

林は2015年、エゾシカを含む日本のシカによる害を知り、猟友会やハンターの協力を得て、熟成エゾシカ肉の販売を始めた。SOKA LEATHER ではリレーのように仲間に受け渡す方式で、野生動物の革なめしを受け入れ始めていた。林との出会いをきっかけに UTaaN PROJECT by SOKA LEATHER (ユータンプロジェクト バイ ツウカレザー)を立ち上げ、ニホンジカ、エゾシカ革の鞣しと製品化に本格的に取り組み始めた。

シカは元々日本に生息し、革製品は文化財として保存されているものがあるように、皮も昔から身近に利用されてきた。しなやかさと強靱さと保温性を兼ね備えた大変優れた素材である。苦しまないように撃つ、仕留めた後速やかに解体所に持ち込み解体する、適正な保存と輸送でタンナーに届ける。シカ専門の処方と技術で鞣し、仕上げる。この道筋を両者が探り、廃棄されていた皮は革となり、林が主宰する LEATHERECTION (※resurrection レザレクション 意味:再誕、復活)と名付けたブランドとなり生まれ変わることができた。作り上げたエゾシカ革と製品は高い評価を得ている。

両者がひとところに会し、これまでの経緯とともに培ってきたレザレクションブランドの成長やSOKA LEATHERの仕事、製品展示、今後の展望について展示する。また、エゾシカ肉料理と埼玉県内酒蔵の地酒を合わせていただく、体験型の展示となる。